

めざせ！としょかんマスター

夏休みだ。なにをする？

- ▶ としょかんに行く
- プールに行く
- アイスを食べる
- ねる

本(ほん)

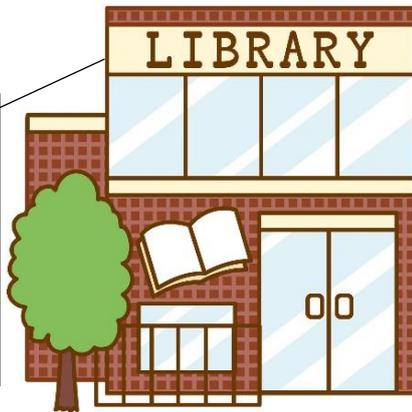
我孫子市では、全部で約 41 万さつの本をもっているよ。(2023年6月現在)

たんだ新聞

たんだ新聞編集部
〒270-1147
我孫子市若松26-4
我孫子市民図書館
TEL04-7184-1110

図書館(としょかん)

我孫子市には、アビスタ本館・湖北台分館・布佐分館と3つの図書館がある。移動図書館もあるよ。



図書館員(としょかんいん)

図書館ではたらく人。本をさがすてだすけをしてくれる。なんでもきいてみよう。

まずはここからはじめてみよう！

レベル 1 利用カードをつくる

我孫子市にすんでいる人は利用カードを作ることができる。このカードがあると、好きな本を10さつまでかりられるよ。



レベル 2 本をさがす

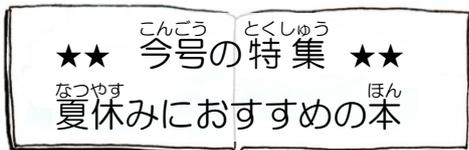
読みたい本、調べたいことがきまったら本をさがしてみよう。図書館の本はきそく正しくならんでいる。さがすには、図書館にあるけんさくきを使う、図書館員に聞くなどの方法があるよ。

これを読んでレベルアップ！！

こんなイベントもあるぞ！挑戦してみよう！

たんだ新聞

市民図書館がつくっている子どものための新聞。今きみがもっているこの新聞だ！



さあ、ページをめくってみよう！

読書マラソン大会に参加する

利用カードを作って、パスワードとうろくをすると、参加できる！もくひょうの15冊をクリアすると、プレゼントがあるよ。

7/21(金)~8/31(木)まで開催！
くわしくは、ホームページを見てね。



1ねんせい おすすめ



「ワニのライルが
やってきた」
バーナード・ウェーバー
／さく
小杉 佐恵子／やく
大日本図書(EAウ)

「ピーターのおいみち」



バーバラ・クーニー
／絵
リー・キングマン／文
三木 卓／訳
講談社(EAク)



「ものぐさトミー」
ペーン・デュポア／文・絵
松岡 享子／訳
岩波書店(EAデ)



「かえるのエルタ」
中川 李枝子／さく
大村 百合子／え
子どもの本研究会／編集
福音館書店(1-ナ)



「こいぬがうまれるよ」
ジョアンナ・コール／文
ジェローム・ウェクスラー／写真
つぼい いくみ／訳
福音館書店(EMカ)



「あのね、わたしのたからものはね」
ジャニス=メイ=ユードリイ／作
エリノア=ミル／絵、かわい ともこ／訳
偕成社(2-ユ)

いぬがうまれてから大きくなっていくようすがわかる本です。こいぬのかわいいしぐさや、いたずらっこぶりが写真でみられます。みんなはどんなこいぬがすきですか。

1年生のクラスでは、まいあさ、たからもの話をすることになっています。ところが、はすかしがりのメアリーは、まだ何も話せていません。考えて考えて、ある日すてきなたからものを思いつきました。さて、たからものは何だったのでしょうか。

2ねんせい おすすめ



「ポリーと
はらぺこオオカミ」
キャサリン・ストー／作
掛川 恭子／訳
岩波書店(2-ス)



「ジェインのもうふ」
アーサー=ミラー／作
アル=パーカー／絵
厨川 圭子／訳
偕成社(2-ミ)



「こぶたの
ポインセチア」
フェリシア・ボンド／作・絵
小杉 佐恵子／訳
岩崎書店(2-ポ)



「びりっかすの
子ねこ」
マインダート=ディヤング
／作
ジム=マクマラン／絵
中村 妙子／訳
偕成社(2-デ)



「番ねずみのヤカちゃん」
リチャード・ウィルバー／さく
松岡 享子／やく
大社 玲子／え
福音館書店(2-ウ)

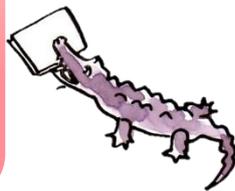
トドさんの家には、お母さんネズミと4ひきの子ネズミが住みついています。トドさんに見つからないように、みんなしずかにしていますが、ヤカちゃんだけは、どうしても大きな声を出してしまいます。トドさんは、ヤカちゃんの声でネズミがいることにきがついてしまいます。



「まいごになったおにんぎょう」
A.アーディゾーニ／文
E.アーディゾーニ／絵
石井 桃子／訳
岩波書店(EAア)

ある日ポケットからすべり落ちたおにんぎょうは、スーパーのれいとうこに落ちこちて、出られなくなってしまいました。それを見た女の子はおにんぎょうに、ぼうしや服を作ってあげます。おにんぎょうはれいとうこの中で楽しくらしはじめますが…。

3年生に おすすめ



「クワガタクワジ 物語」

中島 みち／著
偕成社(1-ナ)



「ちびっこカムの ぼうけん」

神沢 利子／作
山田 三郎／絵
理論社(1-カ)



「森おばけ」

中川 李枝子／さく
山脇 百合子／え
福音館書店(1-ナ)



「ねずみのウーくん」

マリー・ホール・エッツ
／作
たなべ いすず／訳
富山房(EAエ)



「おもしろ荘の リサベツト」

アストリッド・リンドグレン／作
イロン・ヴィークランド／絵
石井 登志子／訳
岩波書店(2-リ)

リサベツトと姉のマディケン^おは、六月が丘のおもしろ荘に住んでいます。ある日、リサベツトがエンドウ豆を鼻のあな^おに押しこんだからさあ大変^{たいへん}。なかなかとれず、お医者さんに行くこととなりますが、豆はぶじにとれるのでしょうか？



「リンゴの木の上のおばあさん」

ミラ・ローベ／作
塩谷 太郎／訳
岩波書店(2-ロ)

アンディにはおばあさんがいません。いつも、友だちがおばあさんと遊んでいるのをうらやましいと思っていました。ある日、アンディがリンゴの木に登って考えごとをしていると、ふしぎなことが起こります。目の前に写真^あらわで見たことのある、自分のおばあさんが現れたのです！

4年生に おすすめ



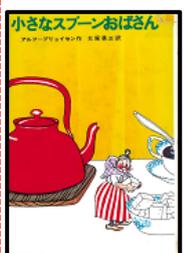
「くまのパディントン」

マイケル・ボンド／作
ペギー・フォートナム／画
松岡 享子／訳
福音館書店(2-ポ)



「フクロウ探偵 30番めの事件」

ジェームズ・マーシャル
／作・絵
小沢 正／訳
童話館出版(2-マ)



「小さなスプーン おばさん」

アルフ・プリヨイセン／作
大塚 勇三／訳
ビョールン＝ベルイ／画
学研プラス(Gakken)
(2-プ)



「みどりのゆび」

モーリス・ドリュオン／作
安東 次男／訳
岩波書店(2-ド)



「魔女学校の一年生」

ジル・マーフィ／作・絵
松川 真弓／訳
評論社(2-マ)

ミルドレットは魔女学校の一年生。ハロウィーンの日、一年生は空飛ぶほうきで編隊飛行をしますが、いじわるなエセルのわなで飛行はめっちゃくちゃに。ミルドレットは先生にしかられると思い、にげ出してしまう。★つづきに「魔女学校の転校生」「どじ魔女ミルの大てがら」などがあります。



「ながいながいペンギンの話」

いぬい とみこ／作、山田 三郎／絵
理論社(1-イ)

南極^{なんきょく}のゆきあらしの中、お父さんペンギンとお母さんペンギンは、寒さにたえてかわりばんこに卵^{たまご}をあたためました。そして生まれたのがルルとキキの兄弟です。ねずみ色のぼやぼやのひよっこペンギンの兄弟は、くいしんぼうでこわいもの知らず。にんげんはこわいもの、ということも知らなかったのです。

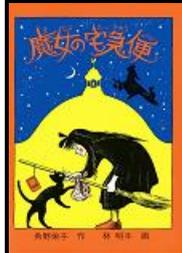
5年生に おすすめ



「マチルダはちいさな大天才」
ロアルド・ダール／作
宮下 嶺夫／訳
クエンティン・ブレイク／絵
評論社(2-ダ)



「ふたりのロッテ」
ケストナー／作
高橋 健二／訳
岩波書店(2-ケ)



「魔女の宅急便」
たつきゆうびん
[その1]
角野 栄子／作
林 明子／画
福音館書店(1-カ)



「ミオよ、わたしのミオ」
リンドグリーン／作
大塚 勇三／訳
岩波書店(2-リ)



「がんばれヘンリーくん」
ベバライ・クリアー／作
松岡 享子／訳
ルイス・ダーリング／絵
学研(Gakken)(2-ク)

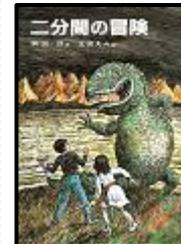
ヘンリーくんは、どこにでもいる小学3年生の男の子。いつも「何か、おもしろいことがおこらないかなあ…」とっていました。ところがある日、街角でやせこけた犬のアパーと出会ってから、ヘンリーくんの周りで次々とゆかいな事件が起こり始めます。



「キャプテンはつらいぜ」
後藤 竜二／作、杉浦 範茂／絵
講談社(1-ゴ)

万年最下位の野球チーム、ブラック=キャット。一学期の最終日、やる気のない6年生がやめ、信じていたキャプテンも去ってしまう。6年生でただ1人残ったガンちゃんにすいせんされて新キャプテンになった5年生の勇。初仕事は、なんと新しいピッチャーさがし。どうする勇？どうなるブラック=キャット！？

6年生に おすすめ



「二分間の冒険」
ぼうけん
岡田 淳／著
太田 大八／絵
偕成社(1-オ)



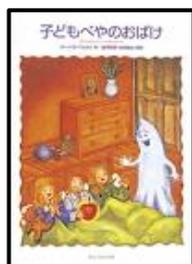
「風のにってきたメアリー・ポピンズ」
P.L.トラヴァース／作
林 容吉／訳
岩波書店(2-ト)



「カランポーのオオカミ王」
ウィリアム・グリル／作
千葉 茂樹／訳
岩波書店(EMグ)



「床下の小人たち」
ゆかした
メアリー・ノートン／作
林 容吉／訳
岩波書店(2-ノ)



「子どもべやのおばけ」
カーリ・ゼーフェルト／作
倉沢 幹彦／共訳
本田 雅也／共訳
前田 浩志／絵
徳間書店(2-ゼ)

ユッタは新しく引っ越してきた家で、おばけのフローリアンと友だちになりました。妹のイーミと弟のベントーもすぐ仲良くなりましたが、フローリアンには500年前からのろいがかけていたのです。



「お江戸の百太郎」
えど ひやくたろう
那須 正幹／作
長野 ヒデ子／画
岩崎書店(1-ナ)

ときは江戸、少年百太郎は岡っ引きの父とくらしていました。「岡っ引き」とは、事件をしらべる、探偵のような仕事です。)のんびり屋の父をたすけるため、百太郎は知恵をはたらかせ、犯人さがしに乗り出します。